

【報道関係各位】
ニュースレター

一般社団法人ウーマンイノベーション
株式会社サニーサイドアップグループ

世界的に展開される SDGs 週間にあわせて、
企業・団体の枠を超えて“女性が手掛ける SDGs”を発信するプロジェクトが始動



WDGs

Women Development Goals



一般社団法人ウーマンイノベーションおよび株式会社サニーサイドアップグループでは、国連総会の会期にあわせて世界的に展開される SDGs 週間(2020年9月18日(金)~9月26日(土))を前に、女性が手掛ける SDGs に関する活動情報やメッセージを発信するプロジェクト「WDGs ~Women Development Goals~」を共同で立ち上げます。(特設サイト：<https://happywoman.online/sdgs/week/>)

一般社団法人ウーマンイノベーションは、国連が制定する3月8日の「国際女性デー (International Women's Day)」を軸に、2015年から“女性のエンパワーメント推進及び社会活性化”に関する活動を HAPPY WOMAN 実行委員会の事務局として推進してきました。2018年からは株式会社サニーサイドアップグループが広報支援に加わり、情報発信領域の裾野を広げています。

本プロジェクトのミッションは、“女性が手掛ける SDGs の現在地を明らかにすること”です。SDGs が掲げる17の課題解決の“横ぐし”ともいえる目標「5.ジェンダー平等を実現しよう」。この目標を軸に、所属する企業・団体や業種の枠組みを超えて、女性という視点から SDGs を読み解きます。

貧困、教育、福祉、エネルギー…それぞれの課題に対して、現代を生きる女性たちがどう向き合い取り組んでいるのか。“女性が手掛ける SDGs の現在地”を是非ご覧ください。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



※以下、敬称略。順不同

スプツニ子! (アーティスト/東京藝術大学デザイン科准教授)

多様な人が生きやすい世界をつくるためには、もっと多くの女性やマイノリティがテクノロジー分野に関わっていくことが必要と私は考えています。「良い未来」の姿は人それぞれ全く違うので、正解も一つではありません。しかし、シリコンバレーをはじめとして、テクノロジービジネスに関わる層は昔から白人男性が圧倒的に多いため、世界に提示される「良い未来」の視野が偏ってしまう傾向が続いている。だからこそ、私はアートを通してテクノロジーのもたらす多様な未来を提示することで、よりよい議論がなされるきっかけを作りたいと思っています。



島田由香 (ユニリーバ・ジャパン・ホールディングス株式会社 取締役 人事総務本部長)

“SDGs って何?”と聞かれたら、“すごい大事な（みんなで）頑張ること！”と伝えています。17 個のゴールはすべて大切。その中からどれか一つでも直観的に興味をもったゴールを選び、今日から、自分なりのやり方で、楽しくちょっと頑張ってみる。みんながそうして少しでも意識を向ければ、確実に達成に向かえるはずです。

ユニリーバは、17 の目標すべてで楽しく頑張ることを選びました。たとえば、ジェンダー平等。ジェンダーにまつわる偏見をなくし、誰もが輝ける社会を創れるよう、履歴書から性別欄や写真をなくしました。本當はこんなことをしなくともいい社会にしたい。共感・共鳴くださる皆さん、一緒によりよい未来を創りましょう。



©The Dream Collective/Hata Eiji



島本久美子（ゲッティイメージズ ジャパン株式会社 代表取締役）

ビジュアルコミュニケーションにおいて、女性や少女をリアルに的確にそして意欲的な姿として表現することで真の男女平等を実現するために役立つものだと信じています。可能性についての受け止め方は多くの場合、過去に目にしてきたイメージの蓄積に大きく影響されます。

ポジティブなイメージの提示は、女性の体形に関するイメージをはじめとした有害な固定観念を払拭し、女性や少女の可能性を広げ、彼女たちができるユニークで意義のある社会への貢献に気付かせるきっかけになります。

ビジュアルコミュニケーションにおいて、女性のリアルで意欲的な姿を表現することは喫緊の課題です。広告・報道業界で、画像の作成、配信、選定に携わる人は誰でも、女性や少女をありのままの姿で、多様な可能性がある存在として見せるチャンスと責任があります。

今こそ、一緒に変化を起こそうではありませんか。



中川順子（野村アセットマネジメント株式会社 CEO 兼代表取締役社長）

投資を通じて資産を殖やすという視点だけでなく、社会に好影響を与えるような投資を“インパクト投資”と呼びます。野村アセットマネジメントが運用するインパクト投資では、例えば、マラリアなど感染症による死亡率低下を目指すという目標を立て、投資先の製薬会社に対して、時には他の投資家とも協働して治療薬を新興国にも供給できる計画をたてましょう、といった対話を行います。結果、貧困層への治療薬提供、というインパクト創出につながっています。当社では、医療問題だけでなく、気候変動や自然資本を守ること、人が保証されるべき権利をインパクト・ゴールとして、投資を通じて世界の社会的課題の解決に貢献していきます。



西川朋子（文部科学省「トビタテ！留学 JAPAN」広報・マーケティングチームリーダー）

文部科学省は 2013 年から官民協働で若者の留学機運を高めるキャンペーン「トビタテ！留学 JAPAN」を展開してきました。

主な取り組みとして高校生と大学生の留学を民間寄附による奨学生で支援する「日本代表プログラム」を運営。奨学生の多くは、SDGs 達成に貢献することを志して留学し、海外経験を活かして帰国後も活躍しています。

また、高校生の海外興味喚起を目指すソーシャル部活動「#せかい部」では、SDGs 探究レポーター募集という新企画も進行中です。これからも未来を担う若者をオールジャパンで応援してまいります。



山本未奈子 (MNC New York 株式会社・株式会社 Bé-A Japan 代表取締役 CEO)

女性が初潮を迎えてから、閉経するまでの期間は平均 40 年間。生理を理由に少女や女性たちが教育やスポーツ、ビジネス等において様々なチャンスを逃してしまうことのないように。生理中のストレスを軽減し、多くの女性が負担に感じている生理期間を、少しでも快適に過ごせるように。

エシカルなものづくりと消費で、世の中を、未来を変えたい、との思いから『超吸収型生理ショーツ Bé-A 《ベア》』を開発しました。

世界の半分は、女性です。そして、女性の可能性に限界はありません。

35 億の女性たちが行動に移せば、それは男性にも伝わる。そしていつしか大きなうねりとなり、社会全体を、地球の未来を変える力となるはず。責任あるイノベーションを起こし、次世代につなげることが私たちの役目だと思っています。

**福寿満希 (株式会社 LORANS. -ローランズ- 代表取締役)**

私たち LORANS.(ローランズ)が最も力を入れて取り組んでいる SDGs は 8 番「働きがいも経済成長も」です。

ローランズでは「誰もが自分色に花咲く社会を作る」を理念に、マイノリティの雇用格差を解消し、ワークユニバーサルデザインを実現するための事業を行なっています。コアとなる、フラワーやカフェの事業をはじめ、そのままでは廃棄となってしまうアパレルや電子機器などの再生事業なども手がけていきます。誰もが自分色に輝くために職種をよりカラフルに増やしていく中で資源のサステナブルも生み出す。様々な企業団体と連携しながらローランズオリジナル SDGs を推進していきます。

**丹羽順子 (imakoko 代表)**

性（セクシャリティ）に関するトピックスは、ジェンダー、パートナーシップ、社会的役割、心身の健康（セクシャル・ウェルビーイング）など多岐にわたり、女性の生き方が多様になる中、さらに重要さを増しています。そのために一歩踏み込んだ、女性のプレジャー（快感、喜び）やコミュニケーションに関する講座、また女性の性に関する痛みや悩みを安心して話せるコミュニティを創造しています。「生きづらさ」を感じる女性をエンパワーする一歩踏み込んだサポートを、みなさまと共に広げていくことで、さらに生き生き輝く女性が増える、それが社会や世界の活力アップや平和を実現する、と信じています。



田村早耶香（認定 NPO 法人かものはしプロジェクト 共同創業者）

私達は、18歳未満の子どもが自分の意思に反し、騙されたり誘拐されたりして、強制的に売春宿で働かされる「子どもが売られる問題」をなくすために活動をしています。被害者は世界中に100万人もいると言われています。この社会課題を解決するため、私自身が大学三年生だった2002年に仲間と共に活動を始めました。まずは問題が最も深刻だったカンボジアで活動を開始し、その後被害が改善したため、現在はインドに活動地を移しています。インドでは、サバイバー（人身売買被害者）が自分の人生を取り戻すための「サバイバーに寄り添う」活動と、人身売買ビジネスが成り立たないような「社会の仕組みをつくる」活動の2つを現地パートナーと共同しながら行っています。



治部れんげ（ジャーナリスト）

私はワークライフ・バランス、企業のダイバーシティ・マネジメント、そしてジェンダー平等を目指すメディア表現や教育について、取材・記事執筆・講演・コンサルティングや政策提言をしております。男女共に、また男女に分類されたくない人も含め、家事・育児・介護と仕事を両立できる社会を目指していきたいです。個人、企業、政府、市民社会がそれぞれの立場で出来ることを考え、実践していくことで、SDGsの目標4・5・17の達成に資すると考えます。



荻原正子（一般社団法人ハミングバード 代表理事）

一般社団法人ハミングバードは、人々が自分自身に他者に、そして、地球上に優しくなれるような、ひらめきを広めることを目的として、三姉妹によって創設されました。

“世界で起こっている事実に気づくことの大切さ”

“小さくても解決したいと思った気持ちを育むことの重要さ”

その想いを声に出して伝えることには、大きな意味があります。

ハミングバードは、SDGsに取り組む人々や企業のエシカルアクションをJ-waveやオンラインサロン、各種媒体で紹介するムーブメントサポートを行っています。

皆様の一つ一つの行動が明るい未来をつくると考えています。

「できる」の気持ちが集まれば、きっと未来は変わると信じています。



エクベリ聰子（株式会社ワンプラネット・カフェ 代表取締役）

「サステナビリティをリアルに」をミッションとし、講演・研修、視察ツアー（スウェーデン、ザンビア）、バナナペーパー事業を行っています。バナナペーパー事業では、アフリカの最貧困層の村の人たちと、日本の和紙工場や紙製品メーカーとの協働で、日本初フェアトレード認証の紙を開発し、販売しています。事業を通じて確信しているのは、日本のモノづくりの技術、精神、知恵が、SDGs の目標達成に大きく貢献し、活躍できるということ。これからも課題と解決の架け橋となり、サステナブルな社会のための事業を加速していきます。



相澤久美（建築家／編集者／プロデューサー）

NPO 法人震災リゲイン 代表理事、NPO 法人みちのくトレイルクラブ常務理事／事務局長)

東日本大震災後、『震災リゲインプレス』という災害専門の新聞を一般向けに発行し、日頃から支え合い、備え、命をつないで欲しいと伝えている。また、東北沿岸部に環境省が復興事業として敷設した「みちのく潮風トレイル」の運営統括も担う。被災した沿岸部を歩いて旅する 1,025km のナショナルロングトレイルを未来に繋ぐ取組だ。東北の自然と共にある暮らし、歴史文化、温かい人々から学び、震災の記憶を継承する。100 年先にも残る持続可能な地域計画の一環として、環境省と 4 県 28 市町村、多くの民間団体や地域住民と広域に連携、協働している。歩く速度だからこそ得られる学びは大きい。この道が、東北の復興に資すると共に、誰しも安心して生命を繋ぐことのできる社会の実現に貢献すると信じている。



CSR48

私たちは、企業の C S R ／サステナビリティ担当者の学びとエンカレッジを目的に 2012 年に結成されました。毎年自分たちが被写体となって SDGs チャリティカレンダーを発売するなど、楽しく情報発信しています。さまざまな社会課題の解決には、企業の積極的な関わりは外せません。私たち担当者がいち早く社会の動きをキャッチして、高いモチベーションで臨むことが大切だと思っています。女性のエンパワーメントとパートナーシップで、明るくしなやかに社会を変えていきたいです。



「WDGs ~Women Development Goals~」プロジェクトリーダー

・小川孔一（一般社団法人ウーマンイノベーション 代表理事）

株式会社マイナビなどを経て 2015 年に起業し、一般社団法人ウーマンイノベーションを設立。2017 年から国連が制定している「国際女性デー」イベント『HAPPY WOMAN FESTA』を立ち上げ、2018 年には全国展開スタート。企業コンサルティング、マーケティング、研修など幅広く活躍中。ヨーロッパで発行されるフランスの月刊誌「ZOOM JAPON」の【明日の日本を創る 50 人】にも選出された。



・谷村江美（株式会社サニーサイドアップグループ 社長室室長）

2009 年に株式会社サニーサイドアップに入社。新規事業開発部署にて新規ブランド推進事業立ち上げなどに携わった後、2016 年から社長室に。社長室室長という管理職の立場から、主に新規ビジネスの開拓や広報・ブランディングを担当。プライベートでは、9 歳と 5 歳になる娘の子育てに日々奮闘中。



＜本件に関するお問い合わせ先＞

インタビューなどのご希望があればお気軽にご連絡ください

株式会社サニーサイドアップグループ 広報担当：奥山（080-4170-8689）、河村

TEL: 03-6894-3232 Email: koho@ssu.co.jp